

3. 4 中学校 1・2・3年生（6） 指導の概略

Ⅱ. 対処行動を知る F. 避難できない人間の心理を知る

指導する学年	中学校3年生	指導する時間	総合的な時間 学活	指導する時数	1 時 間
目 標	防災についての知識はあっても行動できない人間の心理について理解した上で、避難できる意識を持たせる。				
使用する資料	【動画-15】避難できない人間の心理 【資料-13】津波避難率 【print-46】避難に関する心理				

1. 導入

- (1) 日常のいろいろな状況を想定して、そのとき地震が発生したらどうするのかを考える。
- (2) 避難勧告が出たにもかかわらず逃げなかった例を紹介し、避難することの難しさを知る。

【資料-13】津波避難率

- (3) 学習課題「避難指示が出たにもかかわらず避難しなかったのはなぜだろう」を把握する。

2. 展開

- (1) 学習課題について予想させ、意見を交流する。
- (2) 平成18年11月15日の地震のときの様子をビデオを振り返る。

【動画-15】避難できない心理 (1)避難しなかった例 [2:10]

- (3) 「自分だけは大丈夫」という心理「正常化の偏見」を説明する。
- (4) 避難することができた平成16年9月5日の尾鷲市の例をビデオで見る。

【動画-15】避難できない心理 (2)避難した例 [2:34]

- (5) どうして、尾鷲の人は避難することができたのかを考える。
- (6) 尾鷲の人が避難することができた理由のヒントに関するビデオを見る。

【動画-15】避難できない心理 (3)集団同調性バイアス [2:40]

- (7) 「みんながやっていたから…」という心理「集団同調性バイアス」を説明する。
- (8) 尾鷲の人が避難することができた理由は「率先避難者」であることをビデオを見て、確認する。

【動画-15】避難できない心理 (4)率先避難者 [2:53]

3. まとめ

- (1) 人間の心理特性を理解したうえで、どうすればよいかを考えさせる。
- (2) 感想を記入し、発表する。

【print-46】避難に関する心理

4. 確認

- (1) 災害時に地域のみんなを守るために、中学生としてできることを知ることはできたか？

関連する
教科・行事等

【中1社会科】身近な地域の歴史、身近な地域
【総合】史跡調査・フィールドワーク、体験者の聞き取り調査

3. 4 中学校 1・2・3年生（6） 指導の注意点

1. 導入

- (1) 日常生活のいろいろな場面を想定し、そのとき地震が発生したら、どうするかを考えさせる。
→生徒たちは、どんな状況下でも「避難する」という模範的な回答をすることをおさえる
- (2) 調査結果をもとに、実際に大きな地震が発生したり、情報が発表されても、多くの人は実際には避難していない現実を示し、そのときになると避難するのは難しいことをおさえる。
- (3) 避難することのできない人間の心理を知り、いざというときにしっかりと避難することができるようにするにはどうしたらよいかを考える。

2. 展開

- (1) 平成18年11月15日の地震時の釜石市市民を例に、「避難指示が発表されたのに、避難しなかった理由」を予想させる。
→「自分は大丈夫だろう」、「津波はここまで来ないだろう」、「以前、津波注意報が発表されたときも、津波は来なかった」等
- (2) ビデオを見て、避難しようと思った子供に、親が避難しなくてよいと言ったことをおさえる。
- (3) 「自分は大丈夫」と思ってしまう心理である「正常化の偏見」例をだしながら説明する。
→火災報知機が鳴ると…逃げる？イタズラだと思おう？
- (4) 「正常化の偏見」に負けないで、避難するにはどうしたらよいかを考えるため、みんなが避難することができた平成16年9月5日の尾鷲市の例をビデオで見る。
- (5) どうして、尾鷲の人は避難することができたのかを考え、発表させる。
→釜石と尾鷲の例を比較して、違いは何だったのかを考える
→単純な避難の呼びかけ以上の効果があったことを指摘する
- (6) 尾鷲の人が避難することができた理由のヒントに関するビデオを見る。
- (7) 「みんながやっていたから・・・」という心理「集団同調性バイアス」を説明する。
- (8) 尾鷲の人が避難することができた理由は「率先避難者」であることをビデオを見て、確認する。
→人は良くも悪くも周りの状況や様子に大きな影響を受けることをおさえる

3. まとめ

- (1) 人間の心理を特性を理解した上で、周りの大人に何と言われようと、まずは自ら避難することが大切であることをおさえる。
- (2) 感想を記入し、発表する。

たとえ大きな地震が発生したり、避難勧告が発表されても、多くの人はなかなか避難することができない！

- ① 宮城県気仙沼市の例（とても大きなゆれだったのに・・・）
・平成15年5月26日 18.24頃 宮城県沖を震源とするM7.0の地震発生
・津波警報や避難情報は発表されなかったが、気仙沼市は震度5弱のゆれ
・気仙沼市民の津波避難率は・・・わずか1.7%
- ② 三重県尾鷲市の例（1日に2回地震があったのに・・・）
・平成16年9月5日 19:07頃 紀伊半島沖を震源とするM6.9の地震発生
・尾鷲市では震度3のゆれを観測し、津波注意報が発表された
・尾鷲市民の津波避難率は・・・8.4%
- ・平成16年9月5日 23:57頃 東海道沖を震源とするM7.4の地震発生
・尾鷲市では震度4のゆれを観測し、津波注意報と避難指示が発表された
・尾鷲市民の津波避難率は・・・19.7%
- ③ 釜石市の例（情報がたくさん発表されたのに・・・）
・平成18年11月15日 20:15頃 千歳列島を震源とするM8.1の地震発生
・釜石市ではほとんどゆれなかったが、津波注意報と避難指示が発表された
・津波の被害を受ける可能性のある地域のうち、家族の誰かが避難したのは、わずか8.7%



【資料-13】
津波避難率



【動画-15】(1)避難しなかった例 [2:10]



【動画-15】(2)避難した例 [2:34]



【動画-15】(3)集団同調性バイアス [2:40]



【動画-15】(4)率先避難者 [2:53]